

この資料は、2009年9月9日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

## 世界の自動車メーカー 燃料電池車普及で合意

2009年9月10日

### ・ 燃料電池車の開発および市場導入に関する基本合意書に署名

シュツットガルト発ダイムラーAGは、燃料電池技術で自動車メーカーの先頭に立つフォード・モーター・カンパニー、ゼネラル・モーターズ/オペル、本田技研工業株式会社、ヒュンダイモーターカンパニー、起亜自動車、ルノー・日産アライアンス、トヨタ自動車株式会社およびダイムラーAGが、燃料電池車の開発および市場導入に関する基本合意書に署名したとの共同声明を発表しました。各自動車メーカーは既ににすぐれた燃料電池技術のノウハウを蓄積しており、今回の合意によりゼロエミッションである燃料電池車の量産に近づく大きな一歩を踏み出すこととなります。

今回署名した自動車メーカー各社は、2015年以降、多くの燃料電池車が商品化されると確信しています。さらに、世界規模では数十万台の燃料電池車を普及させることを目標としています。各メーカーは商品化や導入時期を含む戦略を個別に展開していることから、メーカーによっては2015年より前に市場に導入する可能性もあります。

近年、自動車の交通量は徐々に増えており、今後、保有台数も伸びることが予測されています。世界的に低炭素社会を目指していることから、今後排出ガスの削減やゼロエミッションのエンジン開発が重要となります。過去10年間、自動車の排出ガスならびに二酸化炭素の低減という各国の目標を達成するため、特に、政府、自動車メーカーおよびエネルギー分野では水素を燃料とした車両を優先的に導入することに注力してきました。現在、世界各地でエネルギー、インフラおよび工業技術に関わる各社が共同で行っている実証実験を通じて、水素燃料の生産、貯蔵、輸送展開が技術的に可能であることが証明されています。

燃料電池車を確実に市場に導入するには、実用に即した十分な水素供給インフラが必要となります。2015年までに水素ネットワークを都市圏で確立し、その後都市圏をつなぐ広範な地域に拡張する予定です。今回署名した自動車メーカー各社は、ドイツをはじめ、欧州および米国、日本、韓国などを起点とする世界のあらゆる地域で燃料電池車普及のための水素供給インフラを実現することを強く支援します。

## ダイムラーAGについて:

Page 2

ダイムラーAG(本社: ドイツ・シュツットガルト)は、メルセデス・ベンツ・カーズ、ダイムラー・トラック、ダイムラー・ファイナンシャル サービス、メルセデス・ベンツ・バン、ダイムラー・バスといった事業部門を有し、プレミアムクラスの乗用車やトラックを生産しているグローバルマーケットリーダーです。

ダイムラー・ファイナンシャル サービス部門は、自動車ローン、リース、保険、フリート管理など幅広い金融サービスを提供しています。

ダイムラーは世界のほとんどの国で製品を販売するとともに、世界 5 大陸に生産拠点を展開しています。

ダイムラーを創設したゴットリープ・ダイムラーとカール・ベンツは、1886 年に自動車を発明、以後自動車史に大きな足跡を残しました。ダイムラーは自動車のパイオニアとして従業員とともに、社会と環境に責任をもって行動し、画期的な技術と高品質の製品により安全で持続可能な未来のモビリティを実現するという義務を積極的に引き継いでいます。

現在、傘下にある自動車ブランドは、メルセデス・ベンツをはじめ、スマート、AMG、マイバッハ、フレートライナー、ウェスタンスター、三菱ふそう、セトラ、オリオン、トマス・ビルト・バスです。

ダイムラーはフランクフルト、ニューヨーク、シュツットガルトの 3 ヶ所の証券取引所に上場しています(銘柄コード DAI)。

2008 年のグループ全体の販売台数は 210 万台、従業員数は 27 万人以上、売上高は 959 億ユーロ、EBIT は 27 億ユーロです。ダイムラーグループではエクセレンス(卓越)を標榜し、持続可能な成長と業界をリードする収益性の実現を目指しています。